

大型プレス据え付け 9月に本格稼働予定

三芳合金

特殊銅合金メーカーの大和合金(本社||東京都板橋区、萩野源次郎社長)は、今年3日、グループの三芳合金工業(本社||埼玉県入間郡三芳町)の本社工場に導入した1500トンの



引き渡しセレモニーの様子

プレス機の振動を抑える構造で夜

アハンマー3体制となり、生産能力が倍増。従来の設備では加工が難しかった大型製品の製造も可能になった。また、プレス機の

レス機の据え付けが完了した。大型プレス機の導入は初めてで、従来の設備と比べ生産性が大幅に向上する。テスト稼働や顧客からの設備認定取得を経て、9月から本格稼働を予定する。

レス。同社は現在、航空機の軸受けや潜水艦、発電機モーターなどの大型鍛造部品向けの加工を500キログラムから2トンのエアハンマーで行っているが、プレス機は生産性が数倍高い。鍛造設備は今回の導入でプレス機1基、エ

間帯の製造もできるため生産量の増加も見込める。萩野社長は「今までよりも遅い時間まで設備を稼働できるため、生産工程の流れが組みやすくなった。そのため急な顧客からの要望にも臨機応変に対応できる」と期待を寄せる。一方で、従来の外注委託している加工につい

ては「製造能力の限度や事業継続計画(BCP)を考えれば、これまで外注をお願いしている企業との連携は不可欠。引き続き協力しながら生産を行っていく」と話す。